

今こそ「保険証を残せ」の大運動を!!

岐阜民医連事務局長 土井 正則

政府は、マイナナンバーカードと一体化させたマイナ保険証の利用をすすめるために、今年の12月2日に現行の保険証の発行を廃止する方針を決めました。これにより健康保険法などの省令を改定し、健康保険証(被保険者証)の交付義務を削除しようとしています。この省令改定に対し、全国から5万を超えるパブリックコメントが寄せられ、その大半は省令改定に反対する内容だと報道されています。交付義務を削除すれば、国民に健康保険証を交付すべき国と保険者の役割を放棄することになり、国民皆保険制度を根底から崩すとともに、マイナ保険証を取得せざるを得ない状況に追い込み、任意であるはずのマイナンバーカード取得を強制することになります。

政府は、総額217億円もの予算を投じてマイナ保険証の利用促進キャンペーンを行っています。しかも医療機関や薬局に対しわずかな「支援金支給」と引き換えに、台本まで作成した窓口での声かけやチラシの配布、ポスターの掲示などを強要しています。一部の薬局ではマイナ保険証を持参しないと処方しないという誤った対応から患者に謝罪文を出すなど、医療現場ではマイナ保険証利用に不安を感じている患者と医療従事者の間で混乱や不信感を生み出しています。

政府は、総額217億円もの予算を投じてマイナ保険証の利用促進キャンペーンを行っています。しかも医療機関や薬局に対しわずかな「支援金支給」と引き換えに、台本まで作成した窓口での声かけやチラシの配布、ポスターの掲示などを強要しています。一部の薬局ではマイナ保険証を持参しないと処方しないという誤った対応から患者に謝罪文を出すなど、医療現場ではマイナ保険証利用に不安を感じている患者と医療従事者の間で混乱や不信感を生み出しています。



保険証を残して!



国民皆保険制度のもとで、国民がいつでもどこでも必要な時に受診できるように交付されている健康保険証を、本来任意取得のマイナンバーカードと一体化すること自体、根本的な誤りがあります。国民が安心して医療を受けられるように、現行の健康保険証を廃止する政府方針を撤回し、引き続き健康保険証を発行することを強く求めます。健康保険証の廃止を許せば、次は介護保険証のマイナンバーカードへの一体化と介護保険証の廃止へとすすむことになり、引き続き「健康保険証を残せ」の運動を強めていきましょう。

**今までどおり
 保険証でも
 受診できます**



楽しくつながり、仲間の輪を広げる秋にしよう

～「地域にひらかれたみんなにやさしい病院」の建設運動の中で広がり強まった職員・地域の皆さんとの協力、共同の輪を秋の強化月間で一層大きく広げましょう～

強化月間の企画に参加しましょう

- ①健康まつり: 10月27日(日) 10時～14時
- ②モルック大会: 11月20日(水) 予定
 ※会場の関係で変更になる場合があります。詳しくは11月号の折込みをご参照ください。
- ③健康チャレンジ: 9月～10月末
 ※詳細は今月号の折込みをご覧ください。

多くの参加をお待ちしています

**ご近所・友だちを班会や企画に誘って
 会員拡大をすすめましょう**

現在会員は、10,969人です

- *会員拡大目標: 300名
- *「いつでも元気」誌 拡大目標: 30部
- *「保険証を残して」署名 署名目標: 3,000筆

新病院での友の会コーナーを開催します

新病院内の自販機コーナーと待合室中央にて、友の会入会・署名・「希望と笑顔」販売を行います。

**勤医協基金目標の達成に向けて
 力を合わせましょう!**

3年前からスタートした、みどり病院リニューアル基金目標2億円まで、あと約6000万円です。この秋の強化月間で、一緒に進めましょう。

班会や学習会に参加しましょう 10月は3人の医師が班会講師を行います

- *10月16日(水) 14時半～
 講師: 若原有紀 医師
 テーマ: 「血糖の上がりやすい食物について」
 場所: 桜台公民館
- *10月23日(水) 14時～
 講師: 脇田建史 医師
 テーマ: 「がんについて」
 場所: 「ほっとはうす」(予定)
- *10月29日(火) 14時～
 講師: 水野佑一 医師
 テーマ: 「ACP(自分らしい最期を迎えるために)」
 場所: 旧透析センター2階

**「いつでも元気」の
 購読をおすすめします**

「いつでも元気」380円

あなたと民医連をつなぐ月刊誌です。全国の活動紹介や、情勢、病気、体操、クイズ、様々な情報が掲載されています。購読希望の方は、友の会までご連絡下さい。

仲間と共に元気に秋の強化月間を進め、新病院に続き、歯科クリニックの開院を迎えよう

「人は愛するに足り、真心は信するに足る。アフガンとの約束」医師中村哲の本の紹介です▼中村医師は、二〇一九年二月四日銃撃されて亡くなった。七三歳。この本は、その一〇年ほど前に、澤地久枝さんが中村医師を支援するために企画された対談の内容をまとめたもの。多くの中村医師の活躍を示す著作には、あまり語られなかった、中村医師の生い立ちや、内面の思いを澤地さんが引き出しています▼中村医師は福岡県福岡市出身で、叔父に著名な作家火野葦平があり、両親は反体制的で、家系の歴史が語られています。もう一つ、彼がクリスチャンである事が、かれのアフガンでの行動に影響を与えているようです。どん底の人たちとの密接なふれあい、多くのボランティアや働き手と生活を共にして、無類の「人間好き」になった中村医師が本の表題の境地に達したのも、クリスチャンとしての宗教観が背景に有ったからでした▼国会審議での参考人としての発言で、明確に自衛隊の派遣を有害無益と断定できたのは、かれの十数年の活動の経験からでした▼灌漑面積二万四千ヘクタール、六〇万の命をささえる事業を成功させ、砂漠のような荒地を、緑の平野に変えたことの意味を、ウクライナやガザで起きている破壊と虐殺と対比のなかでの、確かな希望として捉えたいと思います。(K)

